

3. 事業計画の進捗・達成状況

1. はじめに

学園は今後も建学の精神と伝統を継承して「十年先、二十年先に役立つ人造り」のため、常に将来を見据え時代を先取りした教育体制の構築に尽力しつつ、着実な発展を続けていくための教育研究環境の整備充実に一層の力を注いだ。

2. 大学について

基本方針

大学創立20周年（平成7年）にあたり、学園創立以来の建学の精神と伝統を受け継ぎながら、男女共同参画、生涯学習、国際化社会、障がい者や環境にやさしい社会といった時代と社会の要請に応え、大学の理念を「違いを共に生きる」と定め、この理念を具体的に実現するため「地域に根ざし、世界に開く」「役立つものと変わらないもの」「たくましさやさしさを」の三つのテーマを掲げ、男女共学体制に移行した。

その後、この理念にそって、学部、研究科の設置、改組を進めるとともに、学生の学びの質を充実するために、常にカリキュラムを検討し、教育研究体制の改善充実に努めてきた。

また、地域社会に貢献し連携をさらに図るため諸機関の附設を行ってきたところである。

2022年度も、この基本方針の下に策定した、「愛知淑徳大学ビジョン2020」及び「中期計画2020年～2024年」に基づき、学校教育法第109条第2項に規定する認証評価の結果を踏まえて、次のような事業に取り組んだ。

(1) 120周年記念事業 長久手キャンパス整備計画

学校法人愛知淑徳学園が2024年度に学園創立120周年、大学創設50周年を迎えるにあたり、その周年記念事業の一環として、愛知淑徳大学長久手キャンパスの整備を引続きおこなった。

また、本学の健康系分野の教育体制とクリニックの充実を図り、地域社会との連携を強めていくことを目的として、学部・学科の改組及び学科（専攻）を新たに設置する計画に伴う関連施設等の設置工事を開始し、2022年度及び2023年度の完成に向けて取り組んだ。

①2022年度完成

- ・13号棟の建設が完了し、「言語聴覚学専攻」及び「視覚科学専攻」を13号棟へ移設した。なお、2024年度開設予定の「理学療法学専攻（仮称・設置構想中）」、「臨床検査学専攻（仮称・設置構想中）」も13号棟に設置する予定である。
- ・クリニック関連施設（心理臨床相談室は現アースメック棟のまま）も13号棟へ移設した。医療系学部・学科との更なる連携を図る。

- ・学生部関連施設を3号棟1階へ移設した。
- ・人間情報学部再編のため11号棟2階・3階を改修し、データサイエンス専攻・感性工学専攻の教育機器を整備した。

②2023年度完成予定

- ・2024年度開設予定の「食健康科学部食創造科学科（仮称・設置構想中）」及び「健康栄養科学研究科（仮称・設置構想中）」関連施設を新1号棟に設置する。
- ・現1号棟にある講義室、ゼミ室、研究室を新1号棟へ移設する。
- ・言語聴覚学専攻・視覚科学専攻現工エリアの跡地（11号棟3階・4階）を改修する。
- ・役員室、事務局、企画室を14号棟（現アースメック棟）へ移設する。

（2）情報活用及びデジタル活用に関する組織体制の整備

大学の様々なデータを一括管理し、教学組織、事務組織の必要に応じて随時指標を提示可能な組織体制及びデジタル活用に関する対応を随時行える組織体制を整備した。

今後はこの組織体制のもと、様々な業務のDX化を推進し、DX化による更なる業務効率の向上をめざしていく。

（3）教育研究体制の充実

中期計画を踏まえ教育研究等環境の充実のため、情報教育センターのPC等機器類リプレイス、新1号棟・13号棟建設及び既設校舎改修計画のための積み立て（6年目）、実験棟建設に係る敷地測量・地質調査業務の委託、一般教室操作卓のAV機器のリプレイス、トイレ改修更新工事、GHP空調機の更新工事、静的自動視野計の更新、図書館棟の空調設備増設工事、救急救命学専攻の実習機器等の購入、テニスコート人工芝の全面張替え、エレベーター安全装置設置工事、エスカレーターの各稼働部品の交換及びメンテナンス、院生研究室及び合同研究室の改修工事、新型コロナウイルス感染症への対応、淑友館の土砂崩れ復旧対策工事などを行った。

3. 中学校・高等学校について

2022年度は中学校1学年分のタブレット端末を整備し、中学校全学年分のタブレット端末整備を完了した。これらの機器の充実は、文科省が打ち出したGIGAスクール構想の目指す子どもたちの個性に合わせた教育、すなわち変化の激しい時代に生きるためのICTを活用した新しい教育へシフトしていくことを意味するだけでなく、中高中期計画で示された、学習に取り組む意欲を高め、自ら学習する習慣・態度を身につけさせることにも大きく寄与するものである。

普通教室におけるICT環境整備については、周辺機器としてのプロジェクター整備が欠かせない。教材や発表用資料を簡単に提示したり、電子黒板を併用することで学習の理解を促進

するだけでなく、生徒用端末の接続により個々の意見の発信や共有が簡単に行える。プロジェクターの交換ランプが2022年度で製造中止となるため、プロジェクターの更新を行う必要があり、2022年度に中学校普通教室、2023年度に高等学校普通教室、2024年度に特別教室を更新する計画であったが、昨今の半導体不足の影響で中学校普通教室のプロジェクター更新は納品完了が2023年4月となった。